

全国エリアマネジメントネットワーク活動方針（第9期・第10期）

2024年12月13日幹事会承認

①これまでのエリアマネジメントの振り返りとこれからのエリアマネジメントのコンセプトの検討

- ・エリアマネジメントと呼ばれる取組、手法がまちづくりに取り入れられるようになってから約20年が経過し、各地で実践が進み、その取組や主体も広がってきている。そのよう蓄積が進んでいるエリアマネジメントについて改めて振り返ると共に、社会情勢の変化に応じた今後のエリアマネジメントについて考えていきたい。

②エリアマネジメントに関する職能の確立と人材育成

- ・各地で展開されるエリアマネジメントの実践に応じて、そこに係わる人々の裾野も広がりを見せているが、その役割、職能について明確に確立されているとは言えない状況でもある。そのような中で改めてエリアマネジメントに係わる人々、主体の役割を明確にし、その職能の確立とその育成を進めていきたい。

③エリアマネジメントに関する各種文献資料・事例のデータベース化及びテキストの作成

- ・エリアマネジメントの各種取組、研究が進んでいる中で、エリアマネジメントの活動企画、実践、組織化といった実践的かつ、段階に応じた教材が十分に整理されていない現状でもある。各地の事例や調査、研究資料の収集、データベース化を進めると共に、その蓄積をベースにエリアマネジメントの教材となる資料作成を進めていきたい。

④エリアマネジメントに関する法制度の検証と提案

- ・エリアマネジメントが発展してきたこの20年で、都市再生特別措置法を中心に様々な制度、支援策が生まれてきている。これらはエリアマネジメントの推進に大きな支えとなっている物であるが、改めてその使い勝手や課題等を議論しながら、都市をより良くするためのエリアマネジメントの推進を支える制度提案を進めていきたい。

⑤全国エリアマネジメントネットワークの組織強化・会員拡大・情報発信の充実

- ・全国エリアマネジメントネットワークが発足し10年が経過しようとしている。これまで、エリアマネジメントの普及に一定の役割を果たしてきたが、今後の更なるエリアマネジメントの発展に向けて、ネットワークの役割、あり方について再考し、それに基づいた組織体制や情報発信の強化を進めながら会員の拡大も進めていきたい。

⑥エリアマネジメントの国際間連携の推進

- ・カナダ、アメリカで始まったBID（Business Improvement District）の取組は世界各地に広がり、日本のエリアマネジメントもBIDをベンチマークしながら進んできている。今後とも世界各地の取組を学び、日本に取り入れていくと共に、日本のエリアマネジメントの特徴も世界に発信していく活動を進めていきたい。

⑦エリアマネジメントのDX及びスマートシティの推進

- ・人中心のSociety5.0に向けて、エリアマネジメントの取組がより一般化していく中で、情報技術を活用して様々な取組を高度化していくDXは必須の取組になる。エリアマネジメントの実務の中でDXが進み、各地でスマートシティ化が進んでいくよう、その為の学びや実践の場を展開していきたい。

全国エリアマネジメントネットワーク会長
出口 敦